

いずみグリーンビレッジ構想に係る今後の事業のすすめ方（H27－H29）

今後のいずみグリーンビレッジ事業では、ソフト事業の展開により、これまでに設定した5拠点それぞれの事業拡大を目指すとともに、周辺の公共施設や歴史・自然資源などを関連づけてフル活用することで、いずみ地区全体の活性化を目指します。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">下田農業ふれあい館</p>	<p>◎ 5拠点の情報発信拠点として、 情報コーナーのさらなる充実、利用増加のため、積極的な地域情報の収集、及び展示・情報発信方法の工夫を行う。また、直売所や地場産品レストランを地元農産物等の魅力発信の場としてより効果的に機能させるため、内容の充実と陳列方法の工夫、サービスの向上、また周辺施設との相互PRなどに取り組む。</p> <p>◎ 農業分野の産学連携拠点として 東京情報大学との連携事業(加工品開発、売上状況の解析、PR方法の検討、地域散策マップの作成など)を継続し、利用者の増加を図る。</p> <p>◎ 農業体験、食育推進の場として お米作り体験や収穫祭など、現行の食育推進の取組みを継続する。</p>	<p>◎ 周辺施設と地元農業の連携拠点として、 泉自然公園における野呂町産農産物等の直売を継続実施し、地域内外への知名度の向上、および地域の連携強化を図る。また、紅葉時期以外の開催や開催日数の増加の可能性を検討する。 さらに、泉自然公園など周辺施設との相互利用に特典を付す企画等により、連携の強化と相互利用を促進する。</p> <p>◎ 美しい親水空間と谷津田の農村文化が息づく場として、 ウォーキングイベントのほか、大池親水施設周辺の風光明媚な景観を活用したイベント(絵画・写真コンクールや自然観察会、サクラ・ハス開花期の直売会等)を企画し、優れた景観・農業資源の知名度向上を図る。さらに、森林、谷津田、史跡など自然・歴史資源の活用も検討し相乗効果を図る。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">富田都市農業交流センター</p>	<p>◎ 花(シバザクラ、コスモス)の名所として、 地域の集客拠点としての機能を増進するため、園内管理の徹底、サービスの向上、またイベント開催に係る各種団体等との連携強化を継続的に実施する。一方で、他の時期の集客力も強化できるよう、景観作物の育成、その他新たなサービスやイベント開拓を積極的に試みる。</p> <p>◎ 自然散策の場として、 市民に良好な自然散策の機会を提供できるよう、丁寧な園内管理を継続して実施するほか、H26年度の原田池環境改善対策事業で設置した送水設備を活用し、アオコの発生を抑えるとともに、水質浄化に有効な植物の導入など、他の手段との組み合わせも検討し、環境改善を図る。</p> <p>◎ 農村文化を伝える場として、 現在行っている講習会(工芸・郷土料理等)、農業体験農園や市民農園等の企画、芝焼き等の農村文化を継承する管理方法の実践などを継続するほか、研修室や加工室の利用者増を目指す。</p>	<p>◎ 市の農業振興拠点として、 農業振興の拠点として、農業者の支援のほか、市民利用についてもゾーン別での活用策の検討を進める。 現在行っている市民農園利用者養成講座、及び小学校の総合学習への協力を継続するとともに、農村文化資源(炭焼き小屋等)を生涯学習の推進に活用するなどの検討を行う。 また、農政センター及び周辺農業者の生産した農産物等の直売(千葉市園芸協会)により地産地消の推進を図る。</p> <p>◎ いずみ地区の中心的役割として、 5拠点の事業の支援を引き続き積極的に実施するほか、各拠点への案内標識や、拠点間を結ぶサイクリング・ウォーキングコースの標識の充実を図るなど、サイン計画を整備する。また、いずみ地区の案内マップをHPに掲載し、各拠点等に設置することで利用促進を図る。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">中田都市農業交流センター</p>	<p>◎ サポート充実の市民農園として、 栽培講習会や栽培相談、農機具の貸出しなど、初心者でも野菜づくりを楽しめる市民農園としてサポート体制を充実し、さらにイベントや野バラ園などを施設の付加価値となるよう、今後も継続・発展させるとともに、関係団体などへのPRも積極的にしていく。</p> <p>◎ 花(野バラ等)の名所として、 関東圏内でも珍しい野バラ園を、施設の付加価値というだけでなく、地域の集客拠点として機能させるため、適正な栽培管理を継続し、現在進めている整理・拡張作業による魅力アップを図る。 また、野バラ園見学者への軽飲食提供(コーヒー、カップアイス等)、野バラ開花期に合わせたイベント開催などの可能性を検討する。 一方で、野バラの開花期以外の時期にも集客力を強化するため、景観作物の導入や、花摘み畑としての芝生広場の活用などを検討していく。</p>	<p>◎ 農政センター拠点</p>